

もも栽培情報 第4号

令和5年5月23日
J A アルプス
富山県富山農林振興センター

1 概況

着果状況は、「あかつき」、「川中島白桃」とともに、やや良となっています。

これからは、せん孔細菌病の発生に注意が必要です。定期防除を徹底するとともに、早めの袋かけを実施してください。

また、来年の枝育成や結果枝の受光体勢をよくするため、新梢管理（捻枝等）を行いましょう。

2 病虫害防除

(1) 結実樹

(散布量: 400ℓ/10a)

回	時期	対象病虫害	散布薬剤名	希釈倍率	100ℓ当たり 必要薬剤量
8	6月初旬	せん孔細菌病、黒星病 カイガラムシ類、シンクイムシ 類、ハマキムシ類 (展着剤)	トレノックスフロアブル	500倍	200 ml
			ダイアジノン水和剤34	1,000倍	100 g
			マイリノー	20,000倍	5 ml
9	6月上中旬 (袋かけ後)	せん孔細菌病 モモハモグリガ、カメムシ類、シ ンクイムシ類 (一)	I C ボルドー412 ※1,※2	50倍	2 ℓ
			スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	50 ml
10	6月中下旬	せん孔細菌病、灰星病 シンクイムシ類、モモハモグリガ (展着剤)	デランフロアブル	600倍	166 ml
			デミリン水和剤	3,000倍	33 g
			マイリノー	20,000倍	5 ml

※1: ・ I C ボルドー412 は、必ず袋かけ後に散布する。なお、袋かけが遅くなって防除間隔が開きすぎた場合は、9回目と10回目の防除順番を入れ替える。

・ 降雨が予想される場合、散布を控える（薬害のおそれがあるため）。

※2: 展着剤は使用しなくても支障ない。

(2) 未結実樹

(散布量: 5ℓ/樹以上)

回	時期	対象病虫害	散布薬剤名	希釈倍率	100ℓ当たり 必要薬剤量
6	6月初旬	せん孔細菌病、黒星病 (展着剤)	トレノックスフロアブル	500倍	200 ml
			マイリノー	20,000倍	5 ml
7	6月中旬	せん孔細菌病、黒星病 カイガラムシ類、シンクイムシ 類、ハマキムシ類 (展着剤)	デランフロアブル	600倍	166 ml
			ダイアジノン水和剤34	1,000倍	100 g
				20,000倍	5 ml

3 新梢管理

- ・ 樹勢の強い樹では、骨格枝基部からの強勢な枝は早めに芽かき、切除、摘心等を行いましょう。
- ・ 主枝や亜主枝、側枝等を育成するため、強い新梢は6月以降、捻枝を行いましょう。捻枝は新梢に柔軟性がある6月下旬までに行いましょう。

4 仕上げ摘果

- ・仕上げ摘果は、硬核期に入る満開 50 日後（5 月下旬頃）を目安に終了しましょう。硬核期に入ってから摘果は、核割れの発生を助長し生理落果の原因となります。
- ・果実の形をよく観察し、変形果や双胚果（外観が扁平でなく、丸い果実）を除去し、写真 1 を参考に摘果しましょう。

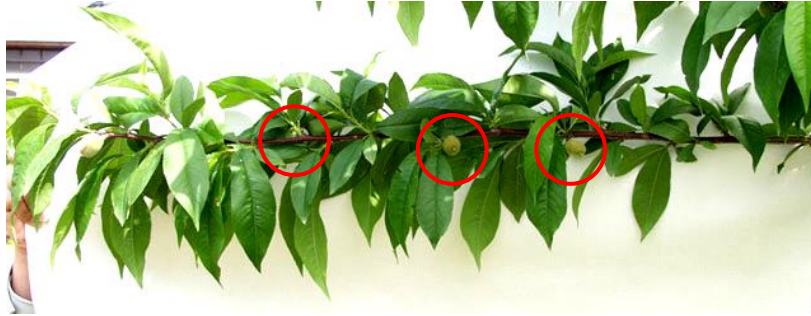


写真1 長果枝の摘果例

結果母枝中央部で3果程度残す(間隔は 15cm 以上)。

5 袋かけ (図1)

- ・病虫害の被害を防ぐため、仕上げ摘果終了直後から袋かけを開始します。早生品種から始め、6 月下旬頃までの完了が目安ですが、せん孔細菌病の発生が見られる園では、果実感染を防ぐため、早めの袋かけに努めてください。
- ・着果過多を防ぐため、前年の着果数を参考に、その袋数を準備すると効率的です。

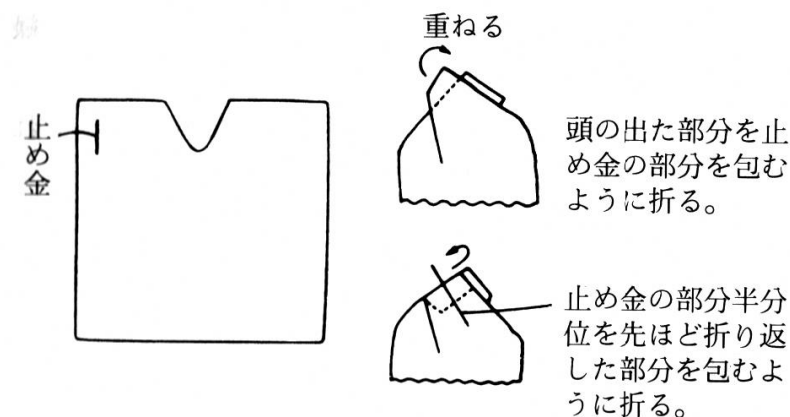


図1 袋かけの方法

6 かん水

- ・土壌の過乾燥による初期生育の遅延や、その後の降雨による生理落果の多発等を防止するため、高温・乾燥が続く場合は積極的にかん水を実施しましょう。

- ★ 農薬散布の際は、濃度や対象病虫害など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。また、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないよう十分注意してください。
- ★ 熱中症予防のため、こまめに水分を補給しましょう。